

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391400260		
法人名	医療法人 悠山会		
事業所名	グループホーム ファミリア神の倉 (1階)		
所在地	愛知県名古屋市長区赤松504		
自己評価作成日	令和2年7月23日	評価結果市町村受理日	令和2年11月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanji=true&jiyosyoCd=2391400260-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室
所在地	愛知県名古屋市長区瑞穂区本願寺町2丁目74番地
訪問調査日	令和2年8月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「いつまでも変わらない、安らかで心穏やかな暮らし」を理念とし、楽しく安心した生活が送れるように支援しています。毎日の日課としてラジオ体操をしたり、余暇活動として、塗り絵やビデオ鑑賞(回想法)、夏祭りや、クリスマス会などを企画し、季節感を感じていただけるようにしています。医療法人を母体としており、24時間医療連携体制で対応しています。いつまでも食事が美味しく食べられるよう口腔ケアをかかさずに行っております。個々にできることを一緒に探し利用者様のペースに合わせたケアを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念を基盤とし、「ゆったり、のんびりと」をモットーに日々の介護に取組んでいます。特に「利用者本人の視点、立場に立って支援する」「残存機能と本人の意欲を生かし、見守る姿勢をもつ」の2点に管理者は重きを置いて職員指導にあたっており、この1年頑張った事は利用者との対話で、その人のことを気遣った優しい関わり方ができる職員が増えてきています。防災訓練には地域災害ボランティア2名の参加とともに地震対策の指導を受けることも叶い、また家族からは「日本語は堪能ではないものの、外国人職員はとても親切で、利用者にも優しい」とエールも届いていて、周囲の温かな応援の下、日々課題解決にあたっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしく今までと変わらない穏やかな暮らしをモットーに理念を事業所に掲示し共有し実践につなげている。	事務所に掲示した理念を基盤とし、「ゆったり、のんびりと」をモットーに日々の介護に取り組んでいます。特に「利用者本人の視点、立場に立って支援する」「残存機能と本人の意欲を生かし、見守る姿勢をもつ」の2点に管理者は重きを置き、職員指導にあたっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常では散歩やコンビニでの買い物の際挨拶程度。施設行事では案内を配り参加の呼びかけをしたり、地域ボラの交流も図っている。	町内会に加わり、回覧板も廻ってきています。開所当初にはミカンのおすそ分けもありましたが、事業所行事におけるポスティングの効果も見られず、近隣とはこれからという段階です。漫談や音楽ボランティアの訪問や中学生の職場体験の受入れは継続しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設行事や職場体験等でご利用者様に関わって頂くことで認知症に対する理解を深めて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月の第3水曜日に開催。事業所報告をしている。意見交換の場を設けて相談支援やアドバイスも頂いている。	3月は利用者の体調不良などで開催できず、本部と今後のコロナ対策を協議したことを以て開催とし、地域包括支援センターには事後報告しています。5月は職員3名、利用者4名が集まり、内部開催とし、8月(7月を延期)は外部者にも集まってもらえました。	コロナと利用者の体調不良が重なるなど、アクシデントがあると定期開催が難しいようです。管理者の右腕(副)となるリーダーの育成を視野にいれた取り組みがあることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	更新手続きの際に入居相談や助言を頂いたり、不明な点があればその都度相談するようになっている。	これまでは行政意向に応じて生活保護受給者の受入れを可能としていましたが、現在入居の6名でストップすることが法人内で決定しており、他のことで貢献できればとしています。各研修には積極的に参加、特に喀痰吸引研修は受講者が口腔ケアに詳しくなって助かっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ご利用者の安全確保のため玄関施錠はおこなっている。また身体拘束マニュアルに基づき拘束のないケアをめざして勉強会を実施し理解周知に取り組んでいる。	勉強会を重ねていますが、現場では新しい課題が次々と生まれるため、なかなか一定水準までには達していません。それでも、その場で起きた事例から「リスクには優先順位をつける必要がある」「利用者の安全を第一に」といった原則を学ぶ機会は多く、管理者が都度解説しています。	身体拘束廃止未実施減算については、各種書面を1つのファイルに収め、整備していくことを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティング、入社時のオリエンテーションで意識向上に努めている。言葉遣いにも配慮し職員同士声掛けし注意しながら虐待防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個別に学ぶ職員もいる。勉強会や会議の場を通して適宜話し合いの環境作りをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安や不明な点に関して説明できるようにしている。ケアマネや事業所を通していつでも対応できるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望に対し会議等で話し合い運営に反映させている。ブログや毎月の通信、来所の際など近々の情報を共有している。	面会が多い人で週1回、平均で月2回程度あり、管理者もコミュニケーションの機会があります。また、ブログや「神の倉通信」で生活の様子も届けており、家族からは「日本語は堪能ではないものの、外国人職員はとても親切で、利用者にも優しい」とエールももらえています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な個別面談や合同会議にて意見や提案を取り上げて反映している。	所内のミーティングが月1回あるほか、定期的な個別面談が年1回おこなわれています。面談は本部人事担当者と法人が依頼した第三者が実施、透明性を高めた取組みとしています。また法人の勉強会への参加機会もあり、ヨコのネットワークもつくりやすい環境にあります。	職員の定着については利用者家族にも心配されています。地域性などの事情もあるかも知れませんが、「帰り際に一声かける」「管理者の個人面談を増やす」など対策を進めることを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に働き甲斐のある職場づくりを目指し、職員が気軽に相談等ができるように代表者や管理者との連携を図れるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の勉強会や事業所の勉強会、個々の外部研修を受ける機会の確保に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内勉強会や合同旅行への参加や他事業者の訪問等にて意見交換しサービスの質を向上させていけるよう取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時はサマリーの情報をもとに声掛け傾聴し信頼管家をつくり、日々の行動や表情からも読み取り話しやすい雰囲気作りを心掛けながら関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来所時や電話での相談援助、職員間情報を共有して家族との信頼関係に対応出来るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者やご家族の意向を聞くと共に、一つずつの行動を見極め対応している。必要に応じて、他サービス形態の事業所を提案する場合もある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で役割をもっていたり、出来ることがあれば職員と一緒に作業をして頂いている。またレクや水分補給をともにやっている。ご利用者様と楽しんだり教わったりすることで、関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の折、ご利用者様の状態報告を行っている。急用の際は直接連絡、相談させて頂いている。ご利用者、ご家族共に双方の事情を考慮した上でよりよい関係が築ける様に支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や知人の方が気軽に来所していただけるよう、雰囲気作りを心掛けている。	「家族は2人まで」「検温」「手の消毒」「入館メモに名前、連絡先を記入する」「面会は10分以内」といったルールを敷き、コロナ禍にあっても家族と会えるようはからっています。趣味や飲酒などを継続できている人はありませんが、家事をやりがいにしている人は数名います。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格上、合う合わないがあるが、なるべく一緒にいえるよう援助し関わり合いが保持できる様に支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があれば対応している。、また、現状を報告して下さる家族もみえる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者の思いや意向を把握しやすいよう、担当を付ける等の配慮をしている。言葉に表現できない方には表情やゼスチャーでコミュニケーションをとり把握に努めて対応している。	言葉で表すのが難しい人は表情で気持ちをおもんばかったり、ゼスチャーでコミュニケーションをとり、申し送りノートや介護支援経過表へ確認できた意向や想いなど記載して、職員間で共有しています。コンビニエンスストアでの買い物など小さなことはすぐ実現させています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談時に、これまでの生活歴やサービスシートに至るまでの経緯等を伺い、フェイスシートにまとめ共有することで把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日申し送りや介護日誌で情報を共有して把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者、ご家族に意見を聞き会議を活用して話し合いの場を設け介護計画を作成している。意見が言えるような環境づくりを心掛けている。	毎日記録する介護日誌、介護支援経過表、生活チェック表をベースにカンファレンスでの意見を反映させ、計画作成担当者と管理者が週1回のモニタリングをおこない、月毎に評価しており、大変こまめです。サービス担当者会議に家族は招いてはけません。	介護計画書の説明を面会の場でおこなっているため、家族の中には介護計画の話し合いがないと受けとめている人もいます。「今から～」と開始を宣言するなり、別室でおこなうなり、家族の認識に誤りが生じない工夫を期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌や経過記録にて情報共有に努めて、カンファレンス等で意見を出し合い見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様の状態やご家族様の状況にあわせ、日々の健康管理や訪問診療等の法人内の各事業所の支援により、多機能的に取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	状況に合わせ」、地域行事に参加したり、ボランティアや消防訓練には消防署の協力を得ることで社会との繋がりがもてるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月二回の訪問診療があり病状に応じ随時24時間対応している。希望される医療に受診の場合も紹介状を依頼し受診している。	18名全員が月2回の訪問診療をおこなう協力医に変更、病状に応じ24時間オンコールの親身な対応を得ています。また、訪問歯科は週1回の診察で口腔衛生指導も併せおこなってくださるほか、法人から看護師の週4日の配置があり、安心な医療体制を築いています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の健康管理や状態について看護師に伝え情報の共有・把握に努め、異常があった際は適切な受診や処置等依頼・相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は医療連携にて状況把握に努め、早期退院に向け病院関係者との情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師より病状の説明をし、ご家族やご利用者の要望を聞き入れながら看取り同意を得ている。段階的に話し合いの場を設けて方針を共有している。	医療が必要であれば看取りをおこなうとし、契約時には「看取り介護・医療の同意書」を家族に説明しています。ただし、同意そのものは状態の変化に応じてであり、現在3名から署名を受けています。また図らずも移転となってしまった場合には、最適となるよう支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生時の初期対応について、マニュアル作成し、医師、看護師、管理者へと連携をとり対応できるように、職員も日頃より、話し合いの場を設けて確認できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を実施しており、地域災害ボランティア様にも参加して頂いている。避難訓練の際評価・アドバイスをいただいている。	地域災害ボランティア2名に参加してもらっている防災訓練では、家具固定等地震対策の指導を受けることができています。今6月にも火災を想定して、通報・経路確認・誘導方法・消火器の扱いといったメニューに取組み、年2回の法定訓練実施を順守しています。	非常食、ランタン、カセットコンロなど、必要なものが揃っているか、シミュレーションをおこなって再確認することとともに、地域での訓練へ顔を出すことを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの生活リズムを大切にしており、日々の関わりのなかで個々に合わせたコミュニケーションを大切にしている。また、プライバシーの保護には十分配慮し、馴れ合いの中で生じる言葉遣いに注意して対応している。	苗字に「～さん付け」、居室はノックして、言葉をかけてから入る、お風呂やトイレでの配慮(目線や言葉かけ)などは具体的に職員に落とし込み、馴れ合いの中で生じる言葉遣いには管理者が特に注意を払っています。また「自己決定が大切」とし、選んでもらう事も気にしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を伝えやすい雰囲気作りを心がけ、出来る限り自己決定が出来るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や気分を考慮して生活のリズムに合わせて支援している。困難な場合には、職員間で話し合い出来る限り希望に添えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を利用し、意向もききながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	お手伝いができることは職員と共に出来る範囲で行っていただいている。	法人内の配食業者から半製品が届き、職員が温めたり、揚げたりしています。揚げ物が続く時などは蒸し物に変えたり、味付けも好みに応じてアレンジする工夫もあり、利用者の嚥下状態で刻みをさらに細かくすることも職員がおこなっています。	検食をおこなうとともに検食簿をつける、なお良い(利用者に沿った改善につながる)と思います。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内のキッチンの配送としており、栄養バランスやカロリー等配慮された献立である。個々の食事形態に配慮し、食事量や水分量の把握をしながら、支援している。低栄養のかたは医師、看護師と相談しながら提供を考慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施。週1回訪問歯科での口腔内の保清をいただいている。ケア方法も職員に指導して頂いている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンの把握に努め、個々に合わせた排泄ケア用品を検討し対応している。	「パット枚数を減少する」「便秘の早期発見」を目的に排泄チェック表を付けていますが、入居前より排泄状況が向上した例は未だありません。パットを丸めてしまったり等不衛生な事も起きやすいため、独歩でトイレに向かえる場合でも付き添って確認させてもらうこともあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の早期発見と対応をしている。自然排便が困難な場合は医師の指示のもと浣腸施行。また、活動を増やしたり、飲食物の提供もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や気分に応じて配慮している。入浴剤を用いる等入浴を楽しめるようにしている。	入浴は週3回を清潔の目安とし、時間帯の希望やこだわりのシャンプー使用、好みの温度などにも対応しています。浴槽に浸かる喜びは格別ですが、現在は5～6名ほどしかできず、他の人はシャワー浴(時に応じて2人介助)となっています。	シャワー浴の際には足浴も同時におこなっているものと思いますが、その時に足浴の中に浴剤を入れてもらえると、香りを楽しめるものと思います。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様の体調を考慮し、昼夜のリズムが作れるよう支援している。また、身体状況に応じ休息の確保に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋が閲覧できるようにし、職員が把握できるようにしている。薬剤師からも指導を頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で自然に取り組めるように支援している。得意分野や昔の生活歴等、日々のコミュニケーションの中からみつけたし職員で共有し支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に添って戸外へ出かけることは難しいが出来る限りの支援はしている。散歩やカフェに行く等外出する機会を設けている。	散歩やカフェ探訪、買い物のほか、法人合同の年2回の日帰り旅行や秋の行楽遠足など、楽しい企画が推進されていましたが、コロナ禍でリスクの伴う外出はとりやめとなり、散歩さえも出ていません。駐車場で外気浴やおやつタイムが唯一の外との接点です。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は施設立替として対応している。希望の場合は家族に相談をし、代行にて購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話や手紙のやり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日清掃や環境整備に努めている。また、芳香剤や季節感のある作品を飾るなどして不快のない空間づくりに努めている。	明日開催の夏祭りに向けて、うちわなど手作り装飾が壁一面を占め壮観なリビングでは、コロナ対策として換気を以前より頻回に実施しています。清掃は就労支援の「りたりこ(LITALICO)」が入っていますが、職員も気づいた箇所は随時掃除しています。	物品の置き場を明瞭にすることと、汚物処理の頻度を上げていくことを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルや椅子の配置を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から使用していた馴染みの家具等、持ち込んでいただいている。	予めベット、カーテン、エアコン、押し入れが備わる居室には、仏壇の持ち込みもみられます。広い空間が増えるとそれだけ転倒リスクも高まるため、家具やベッドの配置を工夫して、適度な空間をつくり、手すり代わりに壁などで支えることができる様、レイアウトを検討しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室出入口やトイレ等には表札をつけ目印にしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391400260	
法人名	医療法人 悠山会	
事業所名	グループホーム ファミリア神の倉 (2階)	
所在地	愛知県名古屋市長区赤松504	
自己評価作成日	令和2年7月23日	評価結果市町村受理日 令和2年11月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajikokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanji=true&jiyosyoCd=2391400260-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室
所在地	愛知県名古屋市瑞穂区本願寺町2丁目74番地
訪問調査日	令和2年8月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「いつまでも変わらない、安らかで心和む穏やかな暮らし」を理念とし、楽しく安心した生活が送れるように支援しています。毎日の日課としてラジオ体操をしたり、余暇活動として、塗り絵やビデオ鑑賞(回想法)、夏祭りや、クリスマス会などを企画し、季節感を感じていただけるようにしています。医療法人を母体としており、24時間医療連携体制で対応しています。いつまでも食事が美味しく食べられるよう口腔ケアをかかさずに行っております。個々にできることを一緒に探し利用者様のペースに合わせたケアを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念を基盤とし、「ゆったり、のんびりと」をモットーに日々の介護に取組んでいます。特に「利用者本人の視点、立場に立って支援する」「残存機能と本人の意欲を生かし、見守る姿勢をもつ」の2点に管理者は重きを置いて職員指導にあたっており、この1年頑張った事は利用者との対話で、その人のことを気遣った優しい関わり方ができる職員が増えてきています。防災訓練には地域災害ボランティア2名の参加とともに地震対策の指導を受けることも叶い、また家族からは「日本語は堪能ではないものの、外国人職員はとても親切で、利用者にも優しい」とエールも届いていて、周囲の温かな応援の下、日々課題解決にあたっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしく今までと変わらない穏やかな暮らしをモットーに理念を事務所に掲示し共有し実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常では散歩やコンビニでの買い物の際挨拶程度。施設行事では案内を配り参加の呼びかけをしたり、地域ボラの交流も図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設行事や職場体験等でご利用者様に関わって頂くことで認知症に対する理解を深めて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月の第3水曜日に開催。事業所報告をしている。意見交換の場を設けて相談支援やアドバイスも頂いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	更新手続きの際に入居相談や助言を頂いたり、不明な点があればその都度相談するようにしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ご利用者の安全確保のため玄関施錠はおこなっている。また身体拘束マニュアルに基づき拘束のないケアをめざして勉強会を実施し理解周知に取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティング、入社時のオリエンテーションで意識向上に努めている。言葉遣いにも配慮し職員同士声掛けし注意しながら虐待防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個別に学ぶ職員もいる。勉強会や会議の場を通して適宜話し合いの環境作りをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安や不明な点に関して説明できるようにしている。ケアマネや事業所を通していつでも対応できるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望に対し会議等で話し合い運営に反映させている。ブログや毎月の通信、来所の際など近々の情報を共有している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な個別面談や合同会議にて意見や提案を取り上げて反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に働き甲斐のある職場づくりを目指し、職員が気軽に相談等ができるように代表者や管理者との連携が図れるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の勉強会や事業所の勉強会、個々の外部研修を受ける機会の確保に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内勉強会や合同旅行への参加や他事業者の訪問等にて意見交換しサービスの質を向上させていけるよう取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時はサマリーの情報をもとに声掛け傾聴し信頼管家をつくり、日々の行動や表情からも読み取り話しやすい雰囲気作りを心掛けながら関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来所時や電話での相談援助、職員間情報を共有して家族との信頼関係に対応出来るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者やご家族の意向を聞くと共に、一つずつの行動を見極め対応している。必要に応じて、他サービス形態の事業所を提案する場合もある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で役割をもっていたり、出来ることがあれば職員と一緒に作業をして頂いている。またレクや水分補給をともに行っている。ご利用者様と楽しんだり教わったりすることで、関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の折、ご利用者様の状態報告を行っている。急用の際は直接連絡、相談させて頂いている。ご利用者、ご家族共に双方の事情を考慮した上でよりよい関係が築ける様に支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や知人の方が気軽に来所していただけるよう、雰囲気作りを心掛けている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格上、合う合わないがあるが、なるべく一緒にいえるよう援助し関わり合いが保持できる様に支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があれば対応している。、また、現状を報告して下さる家族もみえる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者の思いや意向を把握しやすいよう、担当を付ける等の配慮をしている。言葉に表現できない方には表情やゼスチャーでコミュニケーションをとり把握に努めて対応している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談時に、これまでの生活歴やサービスシートに至るまでの経緯等を伺い、フェイスシートにまとめ共有することで把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日申し送りや介護日誌で情報を共有して把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者、ご家族に意見を聞き会議を活用して話し合いの場を設け介護計画を作成している。意見が言えるような環境づくりを心掛けている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌や経過記録にて情報共有に努めて、カンファレンス等で意見を出し合い見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様の状態やご家族様の状況にあわせ、日々の健康管理や訪問診療等の法人内の各事業所の支援により、多機能的に取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	状況に合わせ、地域行事に参加したり、ボランティアや消防訓練には消防署の協力を得ることで社会との繋がりがもてるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月二回の訪問診療があり病状に応じ随時24時間対応している。希望される医療に受診の場合も紹介状を依頼し受診している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の健康管理や状態について看護師に伝え情報の共有・把握に努め、異常があった際は適切な受診や処置等依頼・相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は医療連携にて状況把握に努め、早期退院に向け病院関係者との情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師より病状の説明をし、ご家族やご利用者の要望を聞き入れながら看取り同意を得ている。段階的に話し合いの場を設けて方針を共有している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生時の初期対応について、マニュアル作成し、医師、看護師、管理者へと連携をとり対応できるように、職員も日頃より、話し合いの場を設けて確認できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を実施しており、地域災害ボランティア様にも参加して頂いている。避難訓練の際評価・アドバイスをいただいている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの生活リズムを大切にしており、日々の関わりのなかで個々に合わせたコミュニケーションを大切にしている。また、プライバシーの保護には十分配慮し、馴れ合いの中で生じる言葉遣いに注意して対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を伝えやすい雰囲気作りを心がけ、出来る限り自己決定が出来るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や気分を考慮して生活のリズムに合わせて支援している。困難な場合には、職員間で話し合い出来る限り希望に添えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を利用し、意向もききながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	お手伝いができることは職員と共に出来る範囲で行っていただいている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内のキッチンでの配達としており、栄養バランスやカロリー等配慮された献立である。個々の食事形態に配慮し、食事量や水分量の把握をしながら、支援している。低栄養のかたは医師、看護師と相談しながら提供を考慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施。週1回訪問歯科での口腔内の保清をいただいている。ケア方法も職員に指導して頂いている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンの把握に努め、個々に合わせた排泄ケア用品を検討し対応している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の早期発見と対応をしている。自然排便が困難な場合は医師の指示のもと浣腸施行。また、活動を増やしたり、飲食物の提供もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や気分配慮している。入浴剤を用いる等入浴を楽しめるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様の体調を考慮し、昼夜のリズムが作れるよう支援している。また、定期的な静養もしていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋が閲覧できるようにし、職員が把握できるようにしている。薬剤師からも指導を頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で自然に取り組めるように支援している。得意分野や昔の生活歴等、日々のコミュニケーションの中からみつけたし職員で共有し支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に添って戸外へ出かけることは難しいが出来る限りの支援はしている。散歩やカフェに行く等外出する機会を設けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は施設立替として対応している。希望の場合は家族に相談をし、代行にて購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話や手紙のやり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日清掃や環境整備に努めている。また、芳香剤や季節感のある作品を飾るなどして不快のない空間づくりに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルや椅子の配置を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から使用していた馴染みの家具等、持ち込んでいただいている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室出入口には表札をつけ目印にしている。		